



ハクセキレイ

ハクセキレイは、繁殖期以外は1羽で生活しています。くちばしから目をとおり、頭部に向かって黒い線があるのが特徴です。

「チチチュン」「チュチュンチュチュン」と、飛び立つときによく鳴きます。

常に尾羽を上下に振りながら歩く姿は、ユーモラスでとてもかわいらしいです。

目 次

巻頭言

「研究・研修への姿勢を再確認」

教育研究所長 椎野 美乃 2

1 小さなころみ

「おだわらっ子の教育～幼保・小のなめらかな接続をめざして～」

幼保・小の連携に関する研究員 木村 弘子 3

2 ある教室から

「子どもを主体にした授業づくり」

教育指導課指導主事 高田 秀樹 4

3 研究所だより

①自然観察会 5

②教育講演会 6

③教育ネットワークシステムについて 7

④今後の事業について 8

教育指導課教育研究所指導主事 大須賀 剛

〃 楠 喜久子

教育指導課専門監 秋山 和美

教育指導課研究所研修相談員 小川 護

研究・研修への姿勢を再確認

教育研究所所長

椎 野 美 乃

現職に就いて半年、あらためて教育研究所の仕事の大切さを再認識しています。研究事業として4本の共同研究とプロジェクト研究、研修事業として教育講演会やパワーアップ研修、学習指導法研修、未来学舎等、郷土学習事業として「わたしたちの小田原」や「北条五代物語」等の作成に携わり、さらに今年度は教育ネットワーク整備事業に力を注いでいます。

中でも共同研究は、研究所の持ち味が十分発揮されているもので、研究員の先生方の自主的で熱心な取り組みが研究の原動力になり、継続的なチャレンジが少しずつ形になってきています。3本は昨年度からの継続研究で、年度末の成果報告に向けて練り上げの段階です。この研究成果を多くの方に活用していただきたいと考えています。他の1本、「幼保・小の連携に関する研究」は今年度新規に立ち上げ、まず互いを知り合うためにそれぞれの現場を訪問し、気づき、疑問、感動を率直に出し合うところからスタートしました。

先日、NHKの「プロフェッショナル」でこんな言葉を耳にしました。「仕事は、追求をやめたら作業になっちゃう」、85歳のうなぎ焼き職人、金本兼次郎さんの言葉です。70年近くうなぎを焼いてきた人が、いまでも「どうしたらもっとおいしく焼けるだろう」と工夫を欠かさない。日々調理場に立ち、一本一本に思いを込め工夫を重ねて焼く。妥協を許さない、常に挑戦し続ける姿勢、まさにプロフェッショナル。教員の仕事もこうありたいと思います。日々の仕事に忙殺されるだけでは成長がありません。より良い教員としての

姿を求めて研修・研究を積み上げる、追求を重ねる。チャレンジし続ける。教員として欠かすことのできない姿勢です。

この夏、家族で念願の屋久島旅行に出掛け、樹齢2000年から7000年と言われる縄文杉に出会うことができました。人類の力の及ばない自然の神秘、悠久の別世界、今でも思い出すと感動が蘇ってきます。一本の杉に次の代の杉が芽を出し、三代の杉が一体となってそびえている。一本の杉に十何種類もの別の木が芽を出し、共に逞しく成長していく。これらの現象を「着生（ちゃくせい）」と呼ぶとのこと。命をしっかりと繋げていく姿を目の当たりにしました。懐の深い自然、神秘的で温かみのある自然の営み。考えてみれば、教育もまさに同じ、大人社会の土台の上に子どもが育ち、さらに次の世代へと繋いでいく。あらためて、教員が次の世代を育てる大事な任務を負っていることを痛感します。

私たち教育に携わる者は、広い視野で物事を見つづ、常に探求心を失わずに研究・研修を進めていかなければなりません。教育公務員特例法の「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」に謳われている研修の必要性を再確認する必要があります。

研究・研修時には、是非、教育研究所を活用してください。現在、教育研究所所有の教育図書を学校のパソコンで検索できるようにしようと準備をしています。また、校内研究等のお手伝いもできる限り行いたいと考えています。どうぞ遠慮なくご相談ください。



おだわらっ子の教育 ～幼保・小の円滑な接続をめざして～

幼保・小の連携に関する研究員

満武 有里（たんぼぼ保育園） 村越 直子（曾我保育園）

上鶴瀬 則子（友愛幼稚園） 山室 祐美子（前羽幼稚園）

木村 弘子（桜井小学校） 重田 優子（酒匂小学校）



「小 1 プロブレム」という言葉が生まれ、社会問題の一つとなつてずいぶんたちました。現在、幼児期の保育・教育と小学校教育の連携や接続は、子どもの育ちの上で重要な課題であり、様々な配慮が求められています。本研究は、今行われている幼保・小の交流や連携を見つめ、互いの保育・教育の相互理解と発達段階の特性の把握に努め、より一層の保育・教育の指導内容や方法のあり方、適切な異年齢交流のあり方、連携体制等を探ることを目的としてスタートしました。

初めての研究会では、連携に関して、各園・各小学校での成果とそれぞれが抱えている問題点を話し合いました。例えば、小学校に隣接している公立の園では、運動会や学習発表会などの行事や様々な学習の中で子どもたちの交流が行われており、交流をとおして、お互いの教育活動の違いを理解することにつながりました。

同時に、「交流」が目的化して、交流を通してどんな子を育むのかについて共通理解できているのか、という問題も見えてきました。年長児として園の中心になり活動していた子どもたちを、小学校では「小さな 1 年生」として見てしまい、「間違った優しさ」で、幼児期に育ててきたものをリセットしてしまうこともあるのではないかと思います。それは、園のカリキュラムと身につけたスキルを小学校がしっかりと把握していないために起こると考えられます。また、保護者との関わ

りにおいて、送り迎えのある園は、毎日お互いが顔を合わせ、子どもの小さな成長や気付きなことを伝え合うことができます。そのため、保護者の小さな不安や疑問にもすぐに答えることができます。それが職員と保護者との信頼関係につながっているといえます。ところが、小学校入学後にはそのような関わりが持てないことから、何らかの不安が保護者にもあるように思います。教師側も、保護者や家庭環境の把握については、多少なりとも不安を抱えていることがわかりました。

それでは、実際に小学校や幼稚園・保育園ではどのようなカリキュラムをもとにどのような実践が行われているのでしょうか。同じ小田原市で保育や教育を行っていても、お互いに理解しているのでしょうか。これらの疑問を解決するために、現在、保育園・幼稚園・小学校を実際に見学しています。「生活や遊びの場・環境の工夫」「保護者との連携」「子どもの様子」「生活や学習の 1 日の流れ」などの視点を持って見学することをとおして、おだわらっ子たちがよりよい育ちをするために、また、それまで園で育てあげたものをリセットしてしまうのではなく、継続した教育を行うヒントを探っています。

たくましいおだわらっ子の成長を願い、この研究を進めていきたいと思います。

（文責 木村）

「子どもを主体にした授業づくり」

教育指導課指導主事

高田 秀樹

一年間に、十数校を訪問し、市内小・中学校、幼稚園の授業を参観させていただいています。校内・園内研究をはじめ、初任者研修、パワーアップ研修等、先生方が授業を核にして、子どもの確かな学力と豊かな人間性を育むために、授業づくりに熱心に取り組まれていることを、どの授業からも感じます。

7月に訪問したある小学校の授業を参観した際に、感じたことを紹介します。

4年生国語「一つの花」(光村図書上巻)の授業です。娘を思う父親の気持ちを読み取ることができるという学習目標にむけ、話し合いを中心とした学習活動の時間でした。この物語は、時代背景が戦時中であり、出兵する父親が将来の娘への心配と幸せを願う気持ちが描かれているものです。

子どもたちは、本時までには音読練習に励み、本編のあらすじをおおむね理解できていますが、担任の先生としては、学習目標に迫るために、本文中の言葉をもとに、父の気持ちを考えさせたいという思いがありました。そこで、本時の場面では、『父は深いため息をついて』という1つの言葉に着目させ、焦点化した話し合いにしました。

「深い」という形容詞があるとないとでは、ため息の表情も違ってくるということを、子どもたち自身が、実際にやってみながら説明したり、「息をいっぱい吐くぐらい、つらい気持ちだと思う。」と説明したりするなど、父の思い悩む気持ちに迫ることができました。その後も、『1つだけのよろこびさ』とはどういうことだろう。」と投げかける等、本文中のことばを大切にしながら、考える場面を作っていました。子どもた

ちが、ことば1つ1つを大切にしながら、物語を読むきっかけになった一場面でした。

次に、学習活動の中で、担任の先生が机間指導する様子から感じたことがありました。発問を投げかけた先生は、子どもたちの席を回り始めました。先生が真っ先に足に向けたのは、学習支援の必要な児童の席でした。一斉指導の中で投げかけた発問では、十分理解できないという児童の実態から、発問内容が理解できているかどうかを確認するために、その児童のそばに行ったのでした。先生の声かけに頷いたその児童は、ノートに自分の考えをまとめ始めました。一斉的な学習に終始せず、個人への配慮も忘れない先生の姿勢をみることができました。

この授業者は、初任者の先生でした。授業後に、話を伺いましたが、「日々授業づくりに悩んでいます、子どもを主体に考えて、頑張っていきます。」という頼もしい一言により、安心して学校を後にすることができました。



自然観察会

小田原の自然観察会は、小田原市小中学校理科副読本「小田原の自然」の活用講座として、平成 14 年度に開設され今年度で 12 年目になります。平地・海岸・山地・河川など特色ある小田原の各地で年間 8 回実施しています。対象は、小学校 4 年生から中学校 3 年生までの児童・生徒と保護者です。また、小田原市立小・中学校の教職員も参加しています。各回とも定員は 50 名で、参加料は無料です。講師は小・中学校の（元）先生方で、当日は 4～6 名が付き添います。本年度の計画の詳細は、研究所のホームページに載せてあります。

さて、具体的に自然観察会の様子を知っていただくために、5 月 12 日（日）に実施した最も人気の高い「海岸の自然」観察会の様子を紹介いたします。

当日は、好天に恵まれ風もなく波も静かで 5 月らしい爽やかな日でした。江之浦海岸に向かう途中の JR 鉄橋下では、講師から、東大震災による根府川地区の被災状況について説明がありました。江戸時代初期に村の安泰を祈願して岩盤に彫られた釈迦如来像は、地震と津波により 6 m も埋まってしまったが現存し、釈迦堂に祭られています。その姿を参拝しながら江之浦海岸へと向かいました。

海岸では、参加者を 5 グループの少人数に分け、各班に講師・研究所職員を割り当て、観察、採取、解説・説明、調査等の全ての活動を班行動中心としました。少人数で班行動としたことによって、安全が確保されただけでなく、グループ内での活発な意見交換・質問等が飛び交う、非常に密度の高い観察会となりました。

また、講師の先生方の説明が丁寧で分かりやすく、それに対する参加者の姿勢も主体的・積極的であり、自分の採取物に対して非常に高い興味・関心を示していました。観察・採取後は、各班ごとに採取した生物を「小田原の自然」冊子を使って同定し確認し合ってまとめました。さらに、全体で集まり、各班の代表が全体の中で発表し他の班の採取物や活動を確認し合いました。自分で調べた生物を全員の前で自分の言葉で発表できたことは大きな意義があると思います。発表会後は採取物のリリースなど、観察のマナーはごく自然な行動として行われていました。

「小田原の自然」の活用を図り、採取物を参加者が自分の力で調べられる力をさらに高められるよう、更に内容を充実したものにしていきたいと思います。（小川）

「久々に童心に返って、楽しめました。昔の震災の歴史の説明も勉強になりました。」
（保護者）

「石を裏返すとたくさんの貝やカニがいて驚きました。カニは色々な種類が捕れたけど、ウミウシは最後まで怖くて触れませんでした。」（小 6）

「色々な生き物が見られて楽しかった。ナマコ・ウミウシ・アメフラシが気持ち悪かった。」（小 4）

「今日の観察会でイソギンチャク、ハゼの仲間、カニなどの生物を観察し、特徴などを知りました。例えばハゼの仲間は、腹部に吸盤みたいのがあり石などに張り付くということがわかりました。」（中 1）



子どもの脳を豊かに育む脳科学：しあわせ脳に育てよう

～平成25年度 教育講演会～



8月22日（木）、感性アナリスト・随筆家の黒川伊保子先生をお迎えし、「子どもの脳を豊かに育む脳科学～しあわせ脳に育てよう～」という演題で、小田原市、足柄下郡の保育園、幼稚園、小・中学校の教職員のみなさんを対象に、ご講演をいただきました。軽快に語られる内容は、みなさんの心に響いたことと思います。

興味深かった講演の一部をまとめました。子供たちへの指導に生かし、職場や家庭へも応用しながら、ちょっとした心遣いをすることでしあわせな気持ちを持ち、楽しく生活できるよう努力していきましょう。（秋山）

<早寝のちから>

！秘密はメラトニン！

記憶力、発想力、想像力
体格・運動能力向上
最も上質の眠りは、夜10時～2時にもたらされる。

—早寝のコツ—

- ・日没後、無駄に強い光を網膜に当てない。
- ・暗くして寝よう。（足元の間接照明はOK）
- ・起きる時間を、しっかり思ってから寝ること。
- ・夜、お風呂に入ること。

<読書のちから>

！秘密は海馬！

知恵を増やし、センスを磨く
日々の体験と情動がそうさせる。

脳育でホルモンを分泌するための

脳育での黄金ルール

早寝
早起
朝ご飯
読書
適度な運動

<ごはんのちから>

！秘密は血糖値！

脳の燃料はブドウ糖、血糖
ブドウ糖を次の食事までゆっくり安定供給
—脳に効く「ごはん」—
・繊維質から口にする。
・たんぱく質で、ホルモンや細胞の材料を確保する。
・炭水化物で、糖の材料を確保する。

<早起きのちから>

！秘密はセロトニン！

意欲、感動力、成績向上
思いやりがありキレない
網膜が朝の自然光を感じたときに分泌される脳内神経伝達物質。6～9時に特に分泌されやすい。
脳全体の信号伝達を活性化して爽やかな目覚めを提供するとともに、一日中脳に「穏やかな情感」をもたらし、達成感を感じやすくさせ、意欲を下支えする。天然の抗うつ剤。

<運動のちから>

！秘密はドーパミン、セロトニン！

好奇心、意欲、感動
脳を鍛えるには、適度な運動しかない。

《付録》脳の取り扱い説明書

「男女脳の違い」



命題1 女性は、なぜ昨日まで許していたことに、ある日突然キレて、絶対に許せなくなるのか。

答えようのない質問に善処しよう

「あなたって、どうして、そうなの？」
「〇〇と私、どっちが大切なの？」
↓ ↓ ↓ ↓
『きみにそんなことを言わせたことが悲しい。申し訳ない』

命題2 男はなぜ、察してくれず、あげく「言ってくれればやったのに」なんて無神経なことを言うのだろうか？

女性脳は、察してなんぼ、

男性脳は、察する機能がついていない

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

女性脳への処方箋 <あきらめよう>

自分が死にかけているのに、気付かない人々である。少々嫌な顔をしたくらいで、わかるはずがないと心得よう。

男性脳への処方箋 <察しなかったことを、あやまる>

「言ってくればやったのに」は、察することを放棄したことは。言っではいけない。むしろ、「気づいてあげられなくてごめん」と素直に謝ったほうが、女性たちの好感度は断然高い。

教育ネットワークシステムの導入にあたって ～教育ネットワークシステム検討会での取り組み～

1 はじめに

情報通信の急速な進歩により日常生活が大きく変化している。情報を取捨選択し、コミュニケーションの効果的な手段としてコンピュータを活用する力を子どもたちに育むことが求められており、その土台となるICT環境の整備が急務となっている。しかし、現在の教育ネットワークは十分には活用されていない。そこで、今一度、『学校のために』という視点で、教職員にとってよりよい環境、延いては子どもたちのためとなるシステムの構築に向け、検討することになった。

2 教育ネットワークシステム検討会での取り組み

(1) 検討会の発足（平成24年4月～）

小・中学校代表

（校長会、教頭会、総括教諭、教諭）

行政

（情報システム、建築、教育委員会）

計24名

(2) 検討会・部会の開催

第1～2回	検討会の方向性 現システムの問題点と課題
第3回	新システムで実現したい要件の協議
先進地視察	静岡県富士市（庁舎・学校）
第5・6回	業者提案募集要件の調整と決定
第7～9回	業者提案に対する協議・検討 仕様の確認

課題を整理し、新システム構築に向けて検討を進めた。その過程では、自宅にシンクライアント端末を持ち帰り仕事ができるなど、先進的なシステムを導入している自治体を視察した。また、システムの選定については、専門性の高い情報機器を扱うネットワークを構築する必要があるため、専門業者からの企画・提案を受けながら更に検討していくことにした。

(3) 検討会からみえてきたこと

① 回線の高速化

現状は、回線速度が遅く、例えば、イン

ターネット閲覧でも多くの時間がかかることから、パソコン室の活用も進んでいない。そのため、高速回線に切り替える必要がある。

② 校務用パソコンの環境整備と増設

正規職員に対し一人一台配付されているが、臨時的任用職員も多いことから絶対数が不足している。また、ソフトウェアも十分ではないことから、個人パソコンを使用している職員もいる。そこで、教職員の業務を十分に把握し、セキュリティの観点をふまえた再整備が必要である。

③ 校務支援システムの導入

情報の一元管理と校務の効率化により、教職員が、子どもと向き合い、教材研究等に費やす時間が少しでも増えるよう、校務支援システムの導入が必要である。

④ 自宅利用等リモートアクセス環境の整備

必要なデータを学校から持ち出し、自宅で仕事をせざるを得ない実状ではあるが、この状況はデータの紛失やウイルス感染のリスクが高い。そこで、安全に自宅等からでも利用できる環境を実現したい。

⑤ イン트라ネット・校内LAN環境の拡張

職員室やパソコン室では、校内LANが施設されているが、他の教室等まではLAN環境が施設されていない。そこで、校内の必要とする教室等でネットワークを利用できるようにする必要がある。

⑥ 学校独自のホームページ更新・緊急情報の発信

現状は、各校で更新したデータをWebサーバのある教育研究所に記録媒体で送り、更新する必要があることから、公開までに数日かかる。そこで、学校独自でより迅速に情報を発信できるようにしたい。また、災害発生時等の緊急情報を保護者へ伝達する手段を確保したい。

⑦ 保守管理体制の整備

障害発生時、回線や機器の不具合なのか、ソフトの問題なのか等、原因の切り分けに

